

?と!が生まれる 自然環境

作物を育てる経験のなかで、子どもたちはさまざまなことを学んでいきます。1から10までかかわるために必要な環境は、広さではなく場所がポイントのようです。
監修=大澤 力 (東京家政大学教授)

自然を取り込む園庭作り vol.3

労作を体験できる自然環境

執筆=内野彰裕 (東京都・東京ゆりかご幼稚園園長)

種もみを選び、苗を植えて育て、米がおにぎりとなって口に入るまでの過程を子どもたちに体験させたい……。そんな思いから、5年前、園庭に6㎡ほどの田んぼを作りました。田んぼの隣には麦畑を作り(4月号P.9参照)、4歳児は小麦を、5歳児は米を中心に、「省略しない」「手間ひまをかける」「不作から学ぶ」ことをモットーに、労作を意識した活動を展開しています。園庭の端ではなく遊具の間に設定することで、作物の生長や変化を日々感じることができ、労作が日常生活にとけ込みます。

もみすりや精米など、各作業をひとつおりに経験した後は、やりたい子どもが自由に参加できるようにし、子ども

たちが主体的にかかわれるようにしました。楽しそうに、また真剣に取り組む5歳児。その姿に興味を示して参加した3~4歳児に指示する5歳児は、誇らしげです。9か月かけて大切に育てた米が口に入る瞬間の満足げな表情に、子どもたちの成長を感じます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
米	種もみ選び	もみすり	しろかき	田植え	メダカの放流	かかし作り	稲刈り	種もみすり	脱穀	精米	おにぎり	パティ
小麦				収穫	脱穀		粉ひき	うどん作り	種まき	麦踏み		雑草抜き

※適時



ゆで卵が浮くくらいの塩水で、種もみを選び、浮かないもみをまく。



保育室前で育てた苗を、田んぼに植える。



ひと粒ひと粒に集中して無言になる。



土に水を入れ、足で軟らかくする「しろかき」。



川で捕まえてきたメダカを放流。小川と田んぼを行き来し、稲の生長を助ける。



瓶に入れた玄米を棒で突いて精米。活動は自由参加だが、毎朝黙々と「自分の仕事」を行う子どもたち。

米を味わうまでにかかわった多くの生き物の命に感謝し、そして頑張った自分たちをたたえ、「いただきます!」



※このページでは、「いつでも自然とふれあえる園庭」を目指して、保護者と子どもと保育者で園庭改造に乗り出した東京ゆりかご幼稚園の実践を、1年間ご紹介いたします。来月は「保護者と育む自然環境」です。